

今期の審議について

1 今期の審議内容

(1) 審議のテーマ

共生社会の実現に寄与する社会教育・生涯学習

(2) 委員からの主な意見と今後の意見交換のポイント

ア 学びの支援についての工夫や改善

【委員からの意見】

- 活動や事業のアンケートは、来た人だけの声。来られない理由は何か、考え直す必要がある。
- 互いに情報交換して、コミュニケーションを強めて、学びの支援になるような仕掛けや仕組みを考えていかなければいけない。
- 誰もが学べる、学びたい、どこでもできる、そういうことをユーザーの目線で考えていく。
- 社会教育事業にも特定の人しか集まらず、地域のつながりづくりとはほど遠く、社会的に孤立しがちな人などをどうやって参加させて、一緒に取り組むことができるかが課題。
- テーマと手法が合っていないのではないか。手法自体を変えることで、社会教育自体が孤立している人たちを救うためのセーフティーネットになっていく。
- 障がい者でいうと、まず情報が足りない、目に入りづらいという状況で、機会も失われる。
- 参加できない期間が長くなってしまうと、参加したい意欲が失われて、参加しなくなる。参加できなくても、また行きたい、戻りたいと思える魅力的な場所を作れるかが大事。
- 特別支援学校の生徒は、学校で初めてチームで行う運動や合唱等の楽しみを味わうことが多いが、卒業してばらばらになると仲間が見つけられずに、やりたいけどできない。学校と地域のつながりはあるが、生徒個人になると地域のつながりが持てない。
- 障がい者など、どれぐらいの対象者がいるのか、どういう団体があるのか、それぞれの団体がどのような活動をしているのかという概要を把握できたら。



【今後の意見交換のポイント】

- ・社会的に孤立しがちな人は、どうすれば学びに参加したいと思ひ、また参加しやすいか。
(ニーズの把握方法や情報提供の在り方)
- ・社会的に孤立しがちな人と地域とのつながりをどのように作り出し、維持していくか。

イ 人々の意識改革

【委員からの意見】

- 障がい者の方が変わるのではなく、私たちの社会がどうやって変わっていくのか、私たちが当事者なのではないかという気持ちが大事。
- 自分たちが足りないものを補うのではなく、今あるものをどう社会と結びつけていくのか、自分たちが活かされる場というものを持つこと。
- 困り感を持っている方たちに、昔のように予算をつけて福祉で対応しようとはいかないという状況。
- 社会教育あるいは生涯学習、自分たちの学んだことをまちづくりに生かしていくのだという意識をそれぞれの皆さんが持ちながら進めていく必要がある。
- 「私」にとっての問題ではなく、誰もがアクセスでき、誰にとっても良い環境か、という発想を。
- 共生社会の実現のために、小さな時から自分とは違う考えの人がいて、認め合ったりするところから始まって、顔の見える関係を作っていきたい。
- 子どもと親、子ども同士でも、自分と違う人の話をしっかり聞くことができ、自分の考えもしっかり相手に伝えることができれば、お互いに歩み寄って、一緒にみんなで良くなっていくためにはどうしたらいいのかなということも考えていける。
- 自分たちにもメリットがあれば自分事として捉えてくれる。何を目的とするか、手段とすることを見極める中で、多くの方たちが関わりやすい共生社会を作っていくことが大事。
- 共生社会とは、「共に生きている」ではなく、共に生かされている、生かし合う、そういう社会。



【今後の意見交換のポイント】

- ・私たちの社会を真の「共生社会」へと変えていくために、どのような取組が必要か。
- ・人々の意識改革を進めるために、学校、家庭、地域、行政は、どのような支援ができるか。

ウ 学ぶ場の確保や学びを支援する人材養成

【委員からの意見】

- 施設や機会が都会に集中しがちな北海道で、障がいのあるなしに関わらず参加できるスポーツや芸術などの機会が広がるよう活動できる場所や誘ってくれる人のつながりが北海道中にできるといい。
- 障がいを持った方々のための指導者不足、場の不足がある。誰もが社会教育を受ける権利があり、生涯学習をする権利がある。



【今後の意見交換のポイント】

- ・障がいの有無や家庭環境等に関わらず全ての人が参加できる場とはどのようなもので、どのように創出すればよいか。
- ・学びを支える担い手を育てていくためには、どうすればよいか。

エ 学ぶ内容や道筋そのものの工夫や改善

【委員からの意見】

- 人間関係の中で、社会の中で学んでいくことはどういうことなのか、もう少し体系立てて整理していかないといけない。
- 自分事として、学びを通じて何か自分もできることはないか、学びの後の出口をどうするかというのが大事。学んで終わりではなくて、地域の活動に参加するなど学びを目的化せず手段化するという戦略が必要。
- 学ぶ機会を作るだけでなく、その人たちが、自分たちで学びを作る側になれるという経験が必要。障がいのある人も、社会的に孤立している人もそうだ。
- 子育てについて勉強すると、大変だったことを思い出しつつ、大変だったからこそ自らの経験を伝える学習機会を作りたいと言ってくれる。そういうところまでいって、初めて共生社会の実現に寄与する社会教育というものが見えてくる。
- 目に見えないいろんな困りごとを持っているお子さんもいるが、学習を続けさせたい。やり方を工夫していかなければいけない。
- コロナ禍は、本質を見つめ直す大きなチャンス。集まりづらかったのはコロナが初めてではなく、そもそも集まりづらかった。
- 学びは生きるための手段で、多くの人たちが関わりやすい戦略的な「1つ」の入り口にするべき。
- 障がいのある方の才能を開花させて、北海道の中で担い手に育てていく、そういう機会を作っていくのがいい。



【今後の意見交換のポイント】

- ・ 学びを地域活動への参画など次のアクションにつないでいくためには、内容や体系をどのように工夫し、組み立てていけばよいか。
- ・ 学んだ人が学んで終わりではなく学習機会を作る側になるなど、学びの後の道筋をどのように作っていけばよいか。

オ 共生社会実現への施策（公助）

【委員からの意見】

- 北海道が子どもたちにしっかりお金をかけ、各自治体で格差が生まれないよう、子どもたちの格差を是正していく戦略が必要。
- 縦割り（行政）是正など全庁的・全道的に取り組めるような仕組みを作ること。



【今後の意見交換のポイント】

- ・ 行政機関、団体等が縦割り組織の枠を超えて横断的に取り組むためには、どのような方策や仕組みが必要か。
- ・ 地域住民相互の学び合いや支え合いをより強固で持続的なものとするために、関係機関、団体等の連携協働体制をどのように構築すればよいか。

2 今期のスケジュール（予定）

年度		時期	内容
R 2	現状と課題把握	第1回 (R 2. 10. 8)	審議の方向性についての意見交換
		第2回 (R 3. 1. 13)	○今期の審議について ○行政説明 ○実践事例紹介 ○協議①
		第3回 (R 3. 3 予定)	○実践事例紹介 ○調査報告 ○協議②
R 3	具体的方策	第1回 (R 3. 7 予定)	【協議】 「審議のまとめ」作成に向けた具体的方策について
		第2回 (R 3. 11 予定)	【協議】 「審議のまとめ」(案) について
		第3回 (R 4. 2 予定)	【協議】 <u>「審議のまとめ」の完成</u> → 後日、教育長へ手交



R 4以降～
新たな「北海道教育推進計画（R 5～R 9）」へ反映

※必要に応じ、臨時に会議を開催する場合があります。